



図書館だより

2009.8
No. 12

長崎県立大学佐世保校附属図書館 〒858-8580 佐世保市川下町123
TEL 0956-47-2191(代表) <http://sun.ac.jp/lib>

太陽の世紀

太田博道

(理事長)

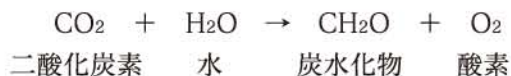
今、地球温暖化ということが大きな問題になっている。日本では、2020年には二酸化炭素の排出量を1990年比で8%減（2005年比で15%減）のレベルまで削減しようということが大きな目標となっている。しかし、仮にそれがきちんとクリアされても、本質的問題解決には全くならない。問題の本質は化石資源を使うこと自体であり、量の問題ではない。ご存知の方も多いとは思いますが、少なくともこれから半世紀を生きる世代の方々には改めて考えて頂きたい。簡単に言えば、ご先祖様の財産を使うのを止めて、日々の糧を得るためにそれなりの工夫をしなければいけないということである。

地球という星は奇跡の星である。宇宙に存在する元素の97%が水素とヘリウムである。それに比べると地球には炭素、窒素、酸素等の「重い」元素が極めて多いという意味で、奇跡的である。このことは、太陽系の惑星だけで比べても地球の際立った特徴である。両隣の金星、火星の気中は95%が二酸化炭素であるが、木星では93%が水素である。その地球が太陽からほど良い距離にあつて、地表の平均温度が15℃なので「水」が「液体」として存在し得る。この距離の軌道を地球が廻っていることも、確率的には奇跡的と言える。地球が水の惑星であるからこそ、生物が誕生し得た。

地球ができた頃は、酸素分子はなく、また生物が地表に存在し得ない程度に紫外線が強



かった。紫外線はDNAを分解するのであらゆる生き物に死をもたらす。その頃海の中では、アミノ酸や核酸など生物が誕生するために必要な「複雑な」化学物質が少しずつできていく。やがて十分量蓄積されたとき、シアノバクテリアという藻の一種が海の深い所（致死量の紫外線が届かない深さ）で誕生した。36億年前と考えられている。このシアノバクテリアは大変優れた能力を有する生き物で、水と二酸化炭素から太陽の可視光（赤い光）のエネルギーを利用して炭水化物（＝糖分）を合成し、生きるために必要なエネルギーを獲得することができる（炭酸同化作用）。このとき「副成」するのが酸素分子である。



(C, H, Oはそれぞれ炭素、水素、酸素の元素記号、下付きの数字は数を表す。実際の炭水化物はCH₂Oが数多くつながった構造。式の左右でそれぞれの元素の数の和は変化していないことに注意)

酸素分子ができると、紫外線のエネルギーによってオゾンが生成する。オゾンは、別の波長の紫外線のエネルギーによって酸素になる。このようにして地球表面での紫外線のエネルギーが酸素とオゾンによって消費されて弱められると、シアノバクテリアは海面近くに上がって来ることが可能となる。すると、可視光の量が増えるので、炭酸同化作用の効率は向上し、ますます酸素、したがってオゾンも増えて、とうとう植物は地上へ進出することに成功した。こうして、元は炭素と結合していた酸素が分子状態で存在しているのが現在の状態である。では、炭素の方は？これが石炭や石油になっている。化石燃料を燃やしても酸素が減ることを心配しなくてよいことは、人類が利用できるのは化石資源のごく一部であることを示す。

その「ごく一部」がなくなることを現実に心配しなければならないのが21世紀である。頼りになるのは太陽だけと言ってよい。原子力の利用も、化石燃料よりは長持ちするにしても放射性ウランの量に限りがあるので、有限であることには間違いない。核融合をうまく制御できるようになれば、現在の核分裂によるエネルギーの利用より放射能汚染という観点からははるかにクリーンでまた長持ちするであろうが、技術的な困難はまだ多い。それに、核融合はエネルギー問題の解決には有効であるが、化石資源枯渇のもう一つの面、即ち「物質源」としての石油の不足の方の解決とはならない。「化学物質」というと、怖いというイメージを持つ人もいるかもしれないけど、これはとんでもない誤解である。衣類、医薬品、建築材料、カーペットやカーテン、自動車の内装、薄型TVを可能にしているものも、DVD等の電子材料やコンピュータも全て化学物質であり、工場で作られるものがほとんどである。これらの大元の原料は石油であり、化石資源が枯渇するとこれらのものを作ることができなくなる。

この問題解決策も最終的には、太陽に頼らざるを得ない。即ち、植物の利用である。植物が作る油の化学構造は石油のそれと似ている。先端の構造がちょっと違うだけなので、現在の化学工業と本質的にさほど変わらない方法で利用することも可能であると考えられる。しかし、もっと効率の良い方法を開発するためには、化学工業の方も思い切って基幹部分を変える方がよさそうだ。植物が生合成するセルロースを上手く処理するとグルコース（分子式は $C_6H_{12}O_6$ ）となる。これをうまく2分割すると $C_3H_6O_3$ 、3分割すると $C_2H_4O_2$ となる。これらの化合物を原料にできれば、植物が二酸化炭素（炭酸ガス）から光合成でつくった化合物の炭素を一つも無駄使いせず利用することになる。現在化学工業で使われているエチレン、エタノールの化学式はそれぞれ C_2H_4 、 C_2H_6O であるから、それらより酸素の割合が大きいのが、使えないことはない。

新しいコンセプトや技術の導入によって、経済や貿易の構造も大きく変化するだろうし、新たなビジネスチャンスも生まれるだろう。燦々と降り注ぐ太陽と豊かな緑の山々、そして海を有し、東アジアに向いている長崎県には、21世紀を先導するポテンシャルが潜んでいると思う。そしてその担い手が長崎県立大学であれば、こんなに素晴らしいことはない。



図書館の思い出

— 就任のあいさつにかえて —

阿部 律子

(佐世保校附属図書館長)

私は読書家にはほど遠い。だが、本や図書館にまつわる思い出は数多く、その中でも特にフランス留学時代の図書館の思い出や本との格闘は今でも記憶の中に鮮明に残っている。

大学院の入試で「大学院では何を研究したいですか」と尋ねられた私は、咄嗟にその直前に読んだヴォルテールの名前を挙げてしまった。ところが、ヴォルテールという作家がフランス文学史上一二を競う多作の作家であるという認識さえなかった当時の私は、それからは否応なく本と格闘する羽目に陥った。その後しばらくして啓蒙思想研究で有名なソルボンヌを留学先に選んだ私はさらにまた自分の無知を恥じ、事の重大さを改めて認識した。モンテスキュー、ルソーなどとともにフランス革命に多大な影響を与えた啓蒙思想家ヴォルテールがどれだけ多作であったかと言えば、19世紀後半に出版されたヴォルテール全集は、1巻が500ページを優に超す50数からなり、その中に歴史作品、文学作品、哲学作品などありとあらゆる作品が収められている。当時はこの全集が最も新しいものであった。付言すれば、オックスフォード大学のヴォルテール・ファウンデーションによって1984年から出版されているヴォルテール全集は、全巻揃えば142巻にもなる。作品数も膨大であるが、口述筆記で認めた書簡も半端な数ではなく、20世紀後半に出版された書簡集は、註釈も含め1巻平均1,200ページ、13巻もある。この13巻の中に15,000通もの書簡が収められている。

博士論文執筆のためにはとにかくこれらの作品群の一部は少なくとも読まなければならなかった。一部ではあっても、気の遠くなる

ような数量であった。読んでも読んでもなかなか進まず、そんな私を見るに見かねて指導教授は、「まさかあなたは全部を最初から読んでるわけではないでしょうね。あなたが一生かかっても読めませんよ。目次や索引を見て、必要なものだけを読むようにしなさい」と助言してくれた。世界的にも有名なこの教授はいつも穏やかで東洋から来た出来の悪い学生を丁寧に指導してくれた。しかし、ヴォルテールや啓蒙思想に関する研究書も数多く、著名な研究者の国家博士論文などは1冊600ページを超えていた。中には1,000ページ近くの論文もあった。作品と研究書を合わせると少なくとも数万ページはこなさなければならなかった。ところが、上記の19世紀末に出版されたヴォルテール全集はどここの図書館にもあるわけではなく、それを読むためにはどうしても大きな図書館に頼らざるを得なかった。

そこでまず通ったのが当時席を置いていたパリ第4＝ソルボンヌ大学の図書館である。この図書館の起源はフランス革命前の1770年に遡り、図書館が入っている建物は17世紀にリシュリューによって建てられたもので、神話をモチーフにした淡い色彩の天井絵が印象的であった。柱や階段は大理石でできていた。しかし、歴史がある図書館だけに蔵書数も多く、300万冊以上もの書籍類を所蔵していた。そのため、すべての蔵書は書庫に収められ、読みたい本も図書目録から整理番号を見つけてきては図書請求カードに記入し、受付窓口申し込んで、1冊1冊係の人に書庫から探してきてもらわなければならなかった。

当時ヴェルサイユの隣町に住んでいた私は、ソルボンヌの図書館まで往復2時間かけて通うのが億劫になり、試みにヴェルサイユ市立図書館に行ってみた。17世紀建築が数多く見られる旧市街にある図書館は、外側から見るとこれが図書館かと思うくらいに古色蒼然とし、漆喰の白壁とすり減った木の階段が歴



史を感じさせた。幸いヴォルテール全集も揃っていて、蔵書数も思った以上に多く、この図書館に通うことにした。10時の開館から本と格闘したが、お昼になると途端に血糖値が下がり、思考力も急激に低下した。そこで、ヴェルサイユ宮殿を遠くに眺めながら湖のほとりでお弁当を食べた。しかし、当時の私はヴェルサイユ宮殿を眺めてもロマンチックな気分にはほど遠く、出口の見えない長い長いトンネルの中にいるような気分であった。お昼を済ますとまた図書館に戻り、6時まで本との闘いを続けた。1日7時間図書館にこもって本と精一杯格闘しても、外国人の悲しさかな、飛ばし読みをしても、読める量は100ページ程度であった。もちろん、重要な箇所を書き取りながらの作業であったため、書き取る箇所が多ければ、それだけ読める量は少なくなった。

そして最後に利用したのが、パリ国立図書館である。14世紀の王室図書館に起源を持ち、王政、革命、帝政、王政復古、共和制と歴史に翻弄されながらも存続したこの国立図書館は現在のようにセーヌ河畔にではなく、ルー

ヴル宮殿やオペラ座からさほど遠くないところにあった。1862年に江戸幕府の第一回遣欧使節団がこの図書館を訪問し、その蔵書に驚嘆したという逸話も残されている。幕府の遣欧使節団はその後も明治維新になるまでこの国立図書館の訪問を慣例としたそうである。ここには伊能忠敬原図の開成所版『官板実測日本全図』4巻も地図部門に収蔵されていると聞く。ここは17世紀の出版物を始めとする膨大な蔵書数を誇り、内部の壁の両側は天井まで届く書架にびっしりと書籍が並べられ、フランスはもとより世界中の研究者が来館していた。しかし、閲覧室の座席数は限られていて、図書館を利用するだけで、2時間以上待たされることも多々あった。しかも、座席を確保しても、蔵書数が膨大なため、お目当ての本の整理番号を図書目録で調べるだけでも手間どった。1874年から始められた『国立図書館蔵書刊本総目録』はようやく1905年に完成したという。当時でもそれほどまでに蔵書数が膨大であったということである。だが幸いここでは利用者が多い有名作家の作品集は例外的に通路の書架にあり、ヴォルテール全集も手に取って自由に読むことができた。論文作成の終盤に引用箇所を再確認するときには非常に便利であった。

こうして私は三つの図書館だけでなく家でも本と格闘した。しかし、出口のないトンネルはなく、長いトンネルであっても、いつかは光明が見えてくるものである。論文審査の後、指導教授が「あなたは質・量ともに本当によく勉強しましたね」と言ってくれた。この一言ですべてが報われた気になった。今となっては留学時代の本との格闘も懐かしい思い出となっている。気軽に読める本もある。しかし、格闘した書物からより多くのことを学んだような気がする。学生のみなさんも本と格闘して、多くのことを学びとってほしいと思う。そして、その格闘がいつしか懐かしい思い出となることを切に願う次第である。

アカウンティングプログラムと 図書館

竹 田 範 義

(流通・経営学科長)

アカウンティングプログラム (Accounting Program：以下AP) が平成20年度から実際に動き出した。APは、会計関連分野の高度専門職業人いわゆる会計プロフェッションを目指す学生のために整備されたものである。

その目標は、税理士などの試験に学部段階で受験し、その科目合格を目指すことである。そして、さらには大学院へ進学し、専門家としての教養を身につけた会計分野のエキスパートを目指すことである。

これらを主な目標とするAPは課外活動がその中心であり、課外活動への参加がAP学生に義務づけられている。図書館1階に専用学習室が設置されており、AP活動の拠点となっている。課外活動には、課外講座と税理士受験対策活動がある。



課外講座は、税理士試験の会計科目 (簿記論)・税法科目 (消費税法) についてそれぞれ基礎講座および対策講座が開講されている。これらの講座は、外部からの専門講師により毎土曜日 (90分×4コマ受講) に実施されている。ちなみに、当該講座は、AP学生でなくとも、本学学生であれば誰でも受講することができる。

税理士受験対策活動は、AP学生を中心とした税理士試験対策などのための勉強会ないし研究会である。当該活動は週3回 (18時～20時) 行われている。それには、AP担当教員や大学院生のティーチングアシスタントが指導・支援をしている。大学院生による学習支援などにより学生間の交流をはかるとともに、大学院との連携をも目指している。

AP学生は、現在1年生が5名、2年生が6名の合わせて11名である。これはAO入試 (アカウンティング) による入学生である。この他に各年度初めに平成20年度以降の入学生を対象にAP学生を募集している。

税理士資格は年に一回実施される税理士試験に合格することで得られる。当該試験は、会計科目と税法科目について行われる。受験科目は、会計科目である簿記論と財務諸表論の2科目、税法科目である所得税法、法人税法、相続税法、消費税法又は酒税法、国税徴収法、住民税又は事業税、固定資産税のうち受験者の選択する3科目 (所得税法又は法人税法のいずれか1科目は必ず選択) の計5科目である。税理士試験の特徴は科目合格制をとっていることである。受験者は一度に5科目を受験する必要はなく、1科目ずつ受験してもよいのである。しかしながら、合格率は10%台前半と非常に狭き門である。また税理士法の改正に伴い大学院での学位による免除が厳しくなり、両科目とも1科目は試験合格が義務づけられた。

既述の目標に向かってAP諸活動を効率的、効果的に実施するに際しては、設備や備品が必要不可欠な要素である。その主なものは図書館に関係するものである。一つは活動の場となる教室である。一つは参考図書および情報検索である。図書館は少なくともこれらを兼ね備えている。

設備などの利用とともに税理士受験対策活動や学習などの利便性から図書館内にAP専用の学習室が設けられている。それが1階の



地域学習室の奥にある「AP学習室」である。ここには、専用図書として日商簿記検定試験や税理士試験などの受験用教材と情報検索用機材が設置されている。ただし、「AP学習室」

は、AP学生以外は入室利用を禁止している。

図書館3階には、簿記・会計および税法の専用図書コーナーが設置されている。これは3階階段左手の閲覧室に向かう図書検索機の隣にある。ここが「APコーナー」である。ここの配架図書は、簿記・会計ならびに税法関連の専門書類がまとめてあり、和書はもとより外国文献も配架されている。AP学生ならびに同じ目標の学生の学習ばかりでなく、一般学生や大学院生の卒業論文・修士論文のための調査研究にも、その利用に際しての利便性がある。

図書館は、大学の中核であり、扇の要である。AP学生にとっても図書館とは常に密着し、連携し、利用する施設であり、十分活用していかなければならない。

人気のDVDベスト10

1	ブラダを着た悪魔
2	プリズンブレイク
3	フルハウス
4	Mr.&Mrs.スミス
5	スウィニー・トッド
6	おくりびと
7	容疑者Xの献身
8	20世紀少年
9	デトロイト・メタル・シティ
10	パコと魔法の絵本



人気のCDベスト10

1	JUDY AND MARY 15TH ANNIVERSARY TRIBUTE ALBUM / JUDY AND MARY
2	レミオベスト / レミオロメン
3	Unreal / flumpool
4	My song Your song / いきものがかり
5	アルトコロニーの定理 / RADWIMPS
6	This Is The One / Utada
7	チャイニーズ・デモクラシー / ガンズ・アンド・ローゼズ
8	告白 / チャットモンチー
9	ファンキーモンキーベイビーズ3 / FUNKY MONKEY BABYS
10	orbital period / BUMP OF CHICKEN

図書貸し出しベスト50

1	行政法総論 第2版 / 宇賀克也著
2	行政法総論 / 塩野宏著
3	流星の絆 / 東野圭吾著
4	学校経営重要用語300の基礎知識 / 岡東壽隆、林孝、曾余田浩史編集
5	阪急電車 / 有川浩著
6	ハリー・ポッターと死の秘宝 (上) / J.K.ローリング作; 松岡佑子訳
7	ハリー・ポッターと死の秘宝 (下) / J.K.ローリング作; 松岡佑子訳
8	ダイイング・アイ / 東野圭吾著
9	食堂かたつむり / 小川糸著
10	ガリレオの苦悩 / 東野圭吾著
11	落ちこぼれでもわかるミクロ経済学の本 / 木暮太一著
12	のぼうの城 / 和田竜著
13	自動車にいくらかかっているか / 上岡直見著
14	脳を活かす勉強法: 奇跡の「強化学習」 / 茂木健一郎著
15	ラブコメ今昔 / 有川浩著
16	行政救済法 (2) / 宇賀克也著
17	モダンタイムス / 伊坂幸太郎著
18	ゴールデンランパー / 伊坂幸太郎著
19	容疑者Xの献身 / 東野圭吾著
20	赤い指 / 東野圭吾著
21	クジラの彼 / 有川浩著
22	らくらくミクロ経済学入門: 試験対応 / 茂木喜久雄著
23	基礎からわかるミクロ経済学 第2版 / 家森信善、小川光著



24	聖女の救済 / 東野圭吾著
25	生きる力をさがす旅: 子ども世界の文化人類学 / 波平恵美子著
26	基礎からわかるミクロ経済学 / 家森信善、小川光著
27	陰日向に咲く / 劇団ひとり著
28	私の男 / 桜庭一樹著
29	地方自治法概説 / 宇賀克也著
30	夜明けの街で / 東野圭吾著
31	マーケティングと現代社会 / 薄井和夫著
32	離島研究 / 平岡昭利編著
33	行政救済法 / 塩野宏著
34	有頂天家族 / 森見登美彦著
35	行政法総論 2 / 宇賀克也著
36	現代ヨーロッパ経済 / 田中素香[ほか]著
37	アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書 / 山岡道男、浅野忠克著
38	流通と消費者 / 岩永忠康、佐々木保幸編著
39	サウスポイント / よしもとばなな著
40	現代のマーケティング戦略 / 薄井和夫著
41	オスマン帝国の解体: 文化世界と国民国家 / 鈴木董著
42	魔王 / 伊坂幸太郎著
43	ミクロ経済学の楽々問題演習 / 滝川好夫著
44	スタバではグランデを買え!: 価格と生活の経済学 / 吉本佳生著
45	健康学がわかる。
46	図書館戦争 / 有川浩著; 徒花スクモイラスト
47	君空: 'koizora' another story / 美嘉著
48	悩む力 / 姜尚中著
49	別冊図書館戦争 (1) / 有川浩著; 徒花スクモイラスト
50	文化人類学と人間: 「ひと」の専門家の学問ばなし / 綾部恒雄、田中真砂子編

附属図書館からのInformation

〈学内者限定〉

オンラインデータベースのご紹介

レポートの作成や
就職活動に便利です



■ 日経テレコン21

- 1975年～当日までの日経四紙
- 速報ニュース
- 企業情報（会社プロフィール、企業決算）
- 人事情報
- マクロ&マーケット（日経平均、為替、マクロ経済統計、地域経済統計）
- POS情報（売れ筋商品ランキング）

■ eol ESPer（有価証券報告書）

- 上場有価証券報告書セット
- 非上場有価証券報告書
- 上場財務データセット
- 非上場財務データセット
- 上場短信セット



1F 展示コーナー

太宰治生誕100周年にちなんで当館に所蔵してある太宰と親交のあった4人の作家の作品を展示してあります。

- 井伏鱒二（師匠であり仲人もつとめた）
- 川端康成（芥川賞落選時の選考委員）
- 中野嘉一（主治医・太宰をサイコパスと診断）
- 山岸外史（親友・なのに絶交状を書きあう仲）

中学生が附属図書館で職場体験！

附属図書館では毎年、日野中学校が実施している職場体験学習を受け入れています。今年は7月7日（火）～9日（木）までの3日間、2学年生の3名を迎えました。

期間中は主にカウンターでの資料の貸出や返却、図書や視聴覚資料の装備や配架などを体験してもらいました。3人は普段から本や図書館が好きだということもあり、緊張しながらも積極的に図書館業務に取り組んでくれました。この体験を通じて仕事への関心を深め、図書館をより身近に感じてくれることを大いに期待します。

◆附属図書館HPアドレス <http://sun.ac.jp/lib>

- 当館は本学学生以外の方でも県内にお住まいの15歳以上の方は利用できます。
- 開館時間／平 日：午前8時30分～午後10時まで（学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで）
土曜日：午前9時～午後5時まで
休館日：日曜日・祝祭日・開学記念日（6/4）

編集責任／長崎県立大学経済学部取書委員会 発行所／長崎県立大学佐世保校附属図書館 発行日／2009年8月4日